

実践報告

地域高齢者と短期大学生の交流サロン運営に関する一考察

中 川 千 代

はじめに

厚生労働省は、超高齢社会を支える地域社会の実現～元気な高齢者の社会参加～が推進され、生活支援（見守り・配食・外出支援・サロン）の担い手として活躍する地域社会の実現を目指している。近年、支援を必要とする高齢者は増加する一方、家庭や地域の力はますます低下することが懸念される。厚労省は取組みの方向性として次の3つを挙げている。1つ目は「高齢者の社会参加を支援する枠組みを検討」すること、2つ目は「高齢者が主体的に社会活動・地域活動に参加し自分の人生を豊かにすることが当然であるといった価値観が国民全体に醸成されるよう国民的な運動を展開」すること、3つ目は「地域でボランティア、NPO、社会福祉法人、企業、自治会、老人クラブなど様々な主体が生活支援（見守り・配食・外出支援・サロン）に取り組み、地域の力によって、高齢者を支えることを推進。さらに元気な高齢者は生活支援の担い手となるように誘導」することである。

今後は、地域で展開される活動のメニューが多様化し、高齢者の多様なニーズに合致することで高齢者の社会参加が促進され、高齢期の人生のイメージを豊かなものとし、地域の高齢者を広範囲に支援し元気な高齢者が担い手として活躍し、それが当たり前の社会を実現する効果をねらっているのである。

そのような中、本学介護福祉研究センターの事業として2016（平成28）年度から鈴鹿市立白子公民館と連携し、白子公民館利用高齢者と本学学生との交流サロンを実施している。今年度、3年目を迎えるこの事業に研究センターの主担当者として筆者が関わってきた。3年間の活動内容について以下にまとめる。

1. 活動内容について

2016（平成28）年6月～2019（平成31）年1月の間、20回の交流サロンを開催した。原則として第1土曜日に開催することとした。その具体的内容は表1のとおりである。

表1. 白子公民館利用高齢者と本学学生との交流サロンの具体的内容

第1回 2016年6月4日

内容：ハンドマッサージの効果と方法（筆者の講義）、アイスブレーキング「弁慶が…」などの後、学生が高齢者にハンドマッサージを行う。また、学生のピアノ演奏「見上げてごらん夜の星を」「川の流れるように」を鑑賞する。



第2回 2016年7月2日

内容：初めに、「七夕（笹の葉さ～らさら…）」を歌いながらリズム膝たたきでアイスブレイキングをする。七夕にちなんで、くす玉と吹き流し（仙台七夕祭りのイメージ）を製作する。※計画外で、巡業中の追手風部屋の稽古場へ訪問し、出来上がったくす玉を渡し健闘を祈るエールを送る。



第3回 2016年9月3日

内容：「三百六十五歩のマーチ」に合わせた体操の後、クロスワードパズル（3種類）と手塚治虫のイラストの塗り絵を学生と高齢者が一緒に行う。



第4回 2016年10月1日

内容：「三百六十五歩のマーチ」に合わせた体操の後、日本地図ボードを活用し県名当てクイズ（グループ対抗）を2年生の学生が進行して行った。全部で20問準備した。終了時間がきたが参加者の希望で全問終わるまで延長した。



第5回 2016年11月5日

内容：「三百六十五歩のマーチ」に合わせた簡単な体操、リズム膝たたきの後、4チームに分かれ（りんご、乙女、もみじ、さくら）、グループ対抗「人間すごろく」を行った。当日、1年生を司会進行に抜擢しサポートしながら進めた。午後には、芋掘り企画もあり、伊勢新聞の取材を受けた。



第6回 2017年2月4日

内容：「三百六十五歩のマーチ」に合わせた簡単な体操、リズム膝たたきの後、手作り飾り立て（メッセージ入り）の作成を行った。終了後、有志の方々に味ご飯を炊いていただき、皆でおにぎりを作って、お手製漬物等とともに賑やかに食べた。



第7回 2017年6月3日

内容：「明日があるさ」に合わせた簡単な体操の後、あいこジャンケンと「いつでも夢を」の合唱（3分45秒）をする。3班に分かれ、「いつでも夢を」の歌詞や曲に合わせた腰かけたままできる楽しい体操を考案し披露しあう。次回以降、アイスブレイキングとして行えるよう筆者がアレンジする。（以後『いつでも夢を！体操』と明記）



第8回 2017年7月1日

内容：「ふじの山」「三百六十五歩のマーチ」に合わせた軽い体操の後、4班にわかれて、紙風船たたき（名前を呼びバトン）、スポンジタワー、お金持ちゲームで競い合う。「みどりの大地」チームが優勝した。景品あり。

**第9回 2017年8月5日**

内容：『いつでも夢を！体操』の後、5班にわかれてクロスワードパズル（2種）を行う。解答を模造紙に書き写す役割を留学生が担う。班ごとに記念写真（ひまわり、クルーズ、富士山、エベレスト、仲よしの5班）を撮る。

**第10回 2017年10月7日**

内容：公民館利用者による生の迫力ある戦争体験（新聞に取り上げられた）を聴いたのち、ラミネーターを使った切り絵作品作りをする。個々の作品作りは、楽しく熱心に取り組めたが、予定より時間がかかった。

**第11回 2017年11月4日**

内容：『いつでも夢を！体操』の後、チーム対抗人間すごろく（5チームに分れる）を行う。1年生の学生3名が司会進行を行った。終了後、白子公民館成人講座受講生の協力のもと所有の畑へ行きサツマイモを掘る。11月5日付の伊勢新聞記事（図2）になる。

**第12回 2018年1月6日**

内容：『いつでも夢を！体操』の後、折り鶴とハネ馬を航空機柄の折り紙で作成し、そのハネ馬を使ったゲームで競う。2年生より「交流サロン」の学びとお礼の言葉について発表を行い、公民館より2年生に感謝状と記念品の贈呈があった。2年間の活動の写真集を作成し参加者に配布する。

**第13回 2018年2月3日**

内容：茶道教室の方々の協力にて「お茶会体験」をする。ネパール留学生が踊りを披露した。1年生にも公民館より感謝状が出る。終了後公民館利用者のご好意で、手作りのもち米いり味御飯を参加学生がいただく。終了後の食事のおもてなしは今年度ほぼ毎回あり、相当の負担をかけた。お茶会の様子は中日三重サービスセンター「鈴鹿ホームニュース」2月24日付に新聞掲載（図3）された。



第14回 2018年6月2日

内容：昨年度まで2年間参加していた卒業生から就職後の現状報告がある。「いつでも夢を」の合唱と『いつでも夢を！体操』を行う。紙風船たたき（名前を呼びバトン渡し）ゲームと2年生の進行により○×クイズ（グループ対抗）を行う。優勝チームに景品あり。



第15回 2018年7月7日

内容：2年生の学生が事前に企画したジャンケンゲーム、風船を使った競技などを2年生が司会進行し行った。2年生にとってはやりがいのある体験となったようで、後に行ったアンケートに記載されていた。1年生にとってもサロン運営の手本となった。



第16回 2018年9月1日

内容：「ふじの山」の指体操及び『いつでも夢を！体操』を皆で行う。その後、ボタンを使ったリレー、スポンジタワーをグループで競い、おうぎ鶴（折り紙）を一人ひとり折る。参加者は、どのゲームにも折り紙にも集中して楽しみ、早く折り紙をマスターできた学生は高齢者のサポートを行った。



第17回 2018年10月13日

内容：白子公民館成人講座受講生の所有の畑でサツマイモの掘り方の説明を受け、芋掘り体験を行った。10月14日付で伊勢新聞（図4）に掲載、10月27日付で中日三重サービスセンター「鈴亀ホームニュース」（図5）に掲載される。



第18回 2018年11月3日

内容：「人間すごろく」～床にすごろく盤を貼り、チーム対抗でとまったコマに書かれている事柄を協力してクリアしながらゴールを目指す。1年生が司会進行を担当した。高齢者の人数は少ない目だったが、参加者は積極的でとても盛り上がった。



第19回 2018年12月1日

内容：白子公民館「旅サークル」のメンバー（高齢者40名）とともに東ソー(株)音楽部 ZOOM UP の演奏会に参加、演奏に合わせて学生も数曲歌を歌った。



第20回 2019年1月5日

内容：最初に白子公民館から2年生に感謝状と景品が授与される。学生たちがピアノ伴奏してジブリの歌を歌い、西城秀樹「ヤングマン」に合わせて皆で手振りをする。ネパールダンスの披露や筆者も昭和歌謡「別れの予感」他を歌う。2年生参加者全員での合唱もあり最後に2年生から2年間の学びとお別れの言葉がある。写真集をラミネートして記念に配布する。

**2. 交流サロンの運営について**

本交流サロンを開催するにあたり、本学ボランティアコーディネーターであり鈴鹿市立白子公民館館長（2017年度まで）でもあった杉谷哲也先生の全面的な協力がスムーズな運営につながった。また、白子公民館利用高齢者は学生たちを温かく迎え入れてくれ、本交流サロンの一参加者のみならず担い手としての前向きな参加の意思がみられた。そして、一部有志の方々はサロン終了後、何度も味ご飯や赤飯、漬物などの手作りの献立で厚くおもてなしを企画、実施してくれた。本交流サロン以外の部分で学生たちとの交流の場を広げて関係性を構築しようというこれらの動きから、学生たちも学業以外にも個々の予定があるなか本交流サロンに参加しようと意欲を出し日程調整してくれている様子が窺われた。内容によっては事前準備が必要なものもあり、筆者は学内で学生に声をかけ集まってもらい一緒に準備を行うことで当日を迎えるまでの学生の気持ちの準備を整えたりもした。本交流サロンの参加に関しては強制力がなく、学生の意思により自由に参加できるものであることから、窮屈さや不快感や無理矢理させられている感覚をもった時点で参加の意思をなくしてしまう恐れがあり、筆者は学生とのほどよい距離感に一番気を遣ってきた。定期的に参加してくれる学生は本交流サロンの運営や高齢者との対話の機会を有意義に捉えており、それはアンケート回答や学生の参加実績から読み取れた。

3. 地域高齢者と本学学生の交流サロン参加実績とまとめ

2016（平成28）年6月～2019（平成31）年1月の参加実績をまとめた（図1参照）。

原則高齢者は20名定員で年度初めに公民館が募集をする。学生に関しては、筆者からその都度1～2ヶ月前に声かけし都合の良い学生を募る。学生数はこの3年間各学年20名前後であったが、各年度当初の学生参加率が高くその後低くなるが一定の人数で推移し年度最終時期になると再度高くなっている様子が読み取れる。また、年々学生の中で留学生の占める割合も増えておりそのことから参加者を確保することが難しい反面、一層交流の必要性が高まっているといえる。2018（平成30）年度は、介護福祉研究センターの事業をボランティアとしてサポートする学生組織「ふれんどえいむ」を作り、意識付けを行った。また、本事業と並行して本学に高齢者を招いて授業等を通して交流する事業も数年前

地域高齢者と短期大学生の交流サロン運営に関する一考察

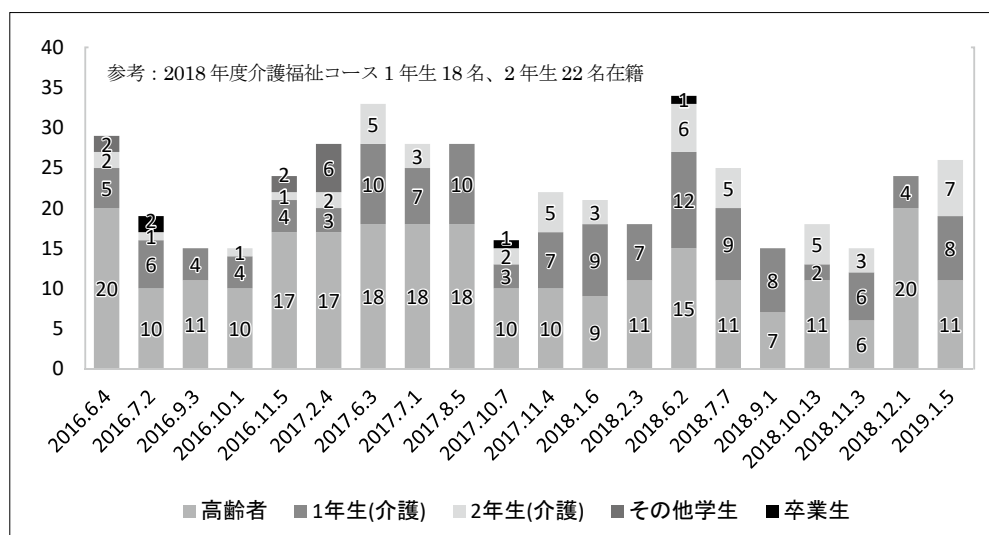


図1. 地域高齢者と本学学生の交流サロン参加実績

から行っており、白子公民館高齢者は、2016～2018年の3年間続けて参加してくれている(図6参照)。

本交流サロンを継続していくために必要な学生参加者の確保と意識付け、学生の接遇技術向上、高齢者の協力、コーディネーター、サポーター等の人材育成など課題は多い。しかし、実感としてこの交流サロンに参加した高齢者及び学生には、何らかの役割意識や達成感、参加したことの楽しさ、喜び、連帯感、相手の理解など多くの学びや変化、成長がみられている。今後は、さらに継続し充実を図っていきたいと考える。

なお、本実践報告は、高田短期大学研究倫理委員会で承認(高短研審第18-12号)を得ている。

本実践報告作成にあたり、ご協力いただいた方々、写真掲載等に快諾くださった白子公民館関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

1. 厚生労働省(2014)「地域における生活支援サービスのコーディネーターの育成に関する調査研究事業報告書」
2. 厚生労働省(2016)「地域づくりによる介護予防推進支援事業」

〈参 考〉掲載された新聞記事



図2. 伊勢新聞 2017.11.5



図3. 鈴鹿ホームニュース 2018.2.24



図4. 伊勢新聞 2018.10.14



図 5. 鈴亀ホームニュース 2018.10.27



図 6. 伊勢新聞 2017.11.19 本学に高齢者を招いての交流